

旅立ちの日に

今年度の卒業式は、3月11日（金）です。この式において最も大切なことは、3年生一人一人への卒業証書授与になります。式では、その他にも来賓祝辞、送辞、答辞、式辞などがあります。国歌、校歌そして式歌もあります。卒業式の歌といえば、『旅立ちの日に』ではないでしょうか。

私は、小学校にも中学校にも高等学校にも勤務したことがあります。それぞれの卒業式で『旅立ちの日に』を聞いたことがあります。それぞれによさがありますが、この歌に一番合っているのは中学校だと思います。

それはなぜでしょうか。この歌をつくったのが中学校の先生だからです。今や卒業式の定番（ていばん）ともなっているこの歌は中学校から生まれたのです。

この歌が誕生したのは1991年です。その当時、埼玉県秩父（ちちぶ）市立影森中学校は、落ち着きのない学校でした。校長の小嶋登先生は、学校を立て直すために「歌声の響く学校」を目指すことにします。

音楽の先生は、20代後半の坂本浩美先生でした。影森中学校では、小嶋校長の考えのもと、合唱の機会が増えていきます。最初からうまくいったわけではありません。それでも、坂本先生を中心に粘り強く努力を続けた結果、歌う楽しさによって学校は明るくなっていきます。

「歌声の響く学校」を目指して3年目の1991年2月下旬のことでした。坂本先生は、歌声の響く学校の集大成（しゅうたいせい）として、卒業する生徒たちのために何か記念になる世界にひとつしかないものを残したいと考えました。

坂本先生は小嶋校長に自分の思いを伝えます。そして、作詞を校長先生に依頼しました。そのとき、校長先生は「私にはそんなセンスはないから」と断っています。ところが、翌日、坂本先生の机には書き上げられた詞があったのです。

その詞を見た坂本先生は、なんて素敵な言葉が散りばめられているんだと感激します。その後、早速、空き時間に一人で音楽室にこもり楽曲制作に取りかかります。すると、旋律（せんりつ）が湧き出るように思い浮かび、わずか15分ほどでできてしまいました。

できがった歌は、最初は、たった一度だけ先生方から卒業生に向けて歌うためのものでした。それが「3年生を送る会」です。一度きりのサプライズのはずでした。ところが、次の年から生徒たちが歌うようになります。小嶋校長は、この年に定年を迎えて退職しました。

しばらくは、影森中学校だけで歌われていた合唱曲でした。それが、次第にまわりの小中学校でも歌われるようになります。そして、1998年頃までには全国の学校で歌われるようになったのです。

この歌には力があります。この歌に多くの人が涙します。それは、学校から誕生した歌だからです。中学校の先生がつくった歌だからです。人の思いが込められた歌だからです。野田中学校には、野田中学校の『旅立ちの日に』があります。